(傍線部は変更箇所)(平成二十四年総務省告示第四百三十五号(広帯域移動無線アクセスシステムの無線局の無線設備の技術的条件を定める件)の一部を改正する告示案 新旧対照表

改 正 案

- 割多元接続方式広帯域移動無線アクセスシステムの無線局の無線設備二 時分割・直交周波数分割多元接続方式又は時分割・シングルキャリア周波数分
 - 1 (容

(器)

- 2隣接チャネル漏えい電力は、炊のとおりであること。
 - 一 基地局の送信装置

チャネル間隔	難調周波数	周波数幅	電力の許容値隣接チャネル漏えい
MH3	II-HW	MH3	三デシベル以下
MHA	HH3	HH3	三デッベル以下
MHZ	MH Z	MHZ O L	三デシベル以下
110 #	110 #	110 HH	大デシベル以下

- 電力の測定帯域の中心周波数までの差の周波数とする。
 注1 離調周波数は、送信周波数帯域の中心周波数から隣接チャネル漏えい
 - は、次のとおりとする。

 | 一の送信装置から<mark>複数の概送波を</mark>同時に発射する送信装置<mark>にあって</mark>
 - り低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波に関するこの表い周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い周波数より 同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数より高

(空)

割多元接続方式広帯域移動無線アクセスシステムの無線局の無線設備二 時分割・直交周波数分割多元接続方式又は時分割・シングルキャリア周波数分

攻 正 前

- (盤)
- 2 隣接チャネル漏えい電力は、次のとおりであること。
 - 〕 基地局の送信装置
 - ① チャネル間隔が二・五帆のもの
 - ||王・祀 の帯域内に輻射される平均電力が、三デシベル以下機送波の周波数から(艹)||・王 岷離れた周波数を中心とする(艹)||・
 - ② チャネル間隔が五眠のもの
 - <u> 砒 の帯域内に輻射される平均電力が、三デシベル以下機送波の周波数から(+)五 塩離れた周波数を中心とする(+)二・五</u>
 - ③ チャネル間隔が一〇mのもの
 - <u>の帯域内に辐射される平均電力が、三デシベル以下機送波の周波数から(+)一○ 堀離れた周波数を中心とする(+)五 堀</u>
 - 倒 チャネル間隔が二〇mのもの

- <u>の</u> <u>のからはまでの複数の機送波を</u>一の送信装置から同時に発射する<mark>も</mark>
 - り低い周波数においては当該最も低い周波数の機送波に関する ① かい周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い周波数より同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数より高

- □ 同時に発射する複数の概送波の間の周波数範囲においては、各機送波
- 同時に発射する複数の概送波の周波数のうら最も高い周波数より高 い周波数においては当該最も高い周波数の触送波、最も低い周波数より 低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波のチャネル間隔に 応じたこの表の許容値を満たすこと。
- 花りとする。
- 10 # 10 🖁 ニデシベル以下 三デシベル以下 110 🖺 110 🖺 110 🖺 注 連続しない複数の触送波を同時に送信する送信装置にあっては、次のと
- チャネル間隔 難調司皮数 司皮数幅 電力の許容値 三・田島 11・用量 二・五氏 ニアシベル以下 田田 田田 ニデシベル以下 101
- **隣接チャネル漏えい**

- □ 一の機送波を送信する送信装置又は連続しない複数の搬送波を同時に 送信する送信装置
- コ 陸上移動局の送信装置

の許容値を満たすこと。

- 波に関するこの表の許容値(複数の搬送波のうち、一の搬送波のチャ <u> ネル間隔に応じたこの表の周波数範囲</u>と他の機送波<u>のチャネル間隔に</u> <u> 広じたこの表の周波数範囲</u>が重復する場合にあっては、当該一の腴法 皮<u>のチャネル間隔に応じたこの表</u>の許容値又は当該他の搬送皮<u>のチャ</u> <u>ネル間隔に応じたこの表</u>の許容値)を満たすこと。
- □ 同時に発射する複数の触送波の間の周波数範囲においては、各態送
- ┌──同時に発射する複数の搬送波の間の周波数範囲においては、各搬送 波に関する

 「ひからはまでの許容値(複数の触送波のうち、一の搬送波 に関する山の帯域、辺の帯域、図の帯域又は山の帯域と他の搬送波 に関する山の帯域、辺の帯域、⑶の帯域又は山の帯域が重複する場 合にあっては、当該一の搬送波に関する、川から、出までの許容値又は当

搬送波の周波数から(#)二・五 凪 離れた周波数を中心とする(#)一・二

搬送波の周波数から(井) 五凪 離れた周波数を中心とする(井) 二・五凪

搬送波の周波数から(井)一〇凪離れた周波数を中心とする(井)五凪の

搬送波の周波数から(井)二〇 凪 離れた周波数を中心とする(井)一〇 凪

五四の帯域内に輻射される平均電力が、ニデシベル以下

の帯域内に輻射される平均電力が、ニデシベル以下

帯域内に輻射される平均電力が、ニデシベル以下

の帯域内に輻射される平均電力が、三デンベル以下

- 該他の搬送波<mark>に関する 3 から 4 まで</mark>の許容値)を満たすこと。
- コ 陸上移動局の送信装置

① チャネル間隔が二・五畳のもの

② チャネル間隔が五色のもの

◎ チャネル間隔が一〇mのもの

④ チャネル間隔が二〇mのもの

り出る情を描たすこと。

この表の許容値)を満たすこと。 に応じたこの表の許容値又は当該他の機送波のチャネル間隔に応じた周波数範囲が重複する場合にあっては、当該一の搬送波のチャネル間隔たこの表の周波数範囲と他の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表のに関する ① アからエまでの許容値(一の搬送波のチャネル間隔に応じ

く。) 連続する二の概送波を同時に送信する送信装置(中継を行うものを除

開隔の組合せ機送波のチャネル同時に送信する各	羅麗周波教	周汝教福	電力の許容値隣接チャネル漏えい
合せ、五班と五服の組	J. Y. MHZ	ب اب MHz	ニアシベイ以下
組合さる。	一回・九五年M	一回・九五五	二・八七デシベル以下
<u>の猫や力</u> <u> ○ 題 か ○ 題</u>	1. T. MHZ	ナ ナ MHz	ニデッベイ以下
組合さる。	二四・九五五	二四・九五五	三・九七デシベル以下
<u>の猫や力</u> <u> ○ 題 か ○ 題</u>	上 よ・ MHZ	ナ 大 MHz	四・七六デシベル以下
<u>の猫や女</u> 110 題 か110 題	三七・ WHIZ	三 元 八 MHz	大デシベル以下

の測定帯域の中心周波数までの差の周波数とする。 送信周波数帯域を合わせたものをいう。)の中心周波数から不要発射の強度注 離調周波数は、送信周波数帯域(同時に送信する連続する二の搬送波の

三 陸上移動中継局の送信装置

場合にあっては「の規定を、それぞれ適用する。(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継するは「の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

する。表の上欄に掲げる種別に応じ、それぞれ同表の中欄及び下欄に掲げるとおりとえの上欄に掲げる用いて連続する概送波を送信する場合に使用する機送波の数は、次の図上移動局(中継を行うものを除く。)の送信装置がキャリアアグリゲーショ

回 陸上移動中継局の送信装置

場合にあっては「、の規定を、それぞれ適用する。(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継するは「「の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

送信の種別	送信する搬送波の周	キャリアアグリゲーション
	 	技術を用いて送信する最大
		の搬送波の数
連続する搬送波によ	二、五四五毗を超え	11
る送信	二、大五五概以下	

に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。電力の九九パーセントが含まれる周波数の幅は、次の表の上欄に掲げる組合せ、対技術を用いて連続する搬送波を送信する場合における複数の搬送波の全平均は、陸上移動局(中継を行うものを除く。)の送信装置がキャリアアグリゲーショ

同時に送信する各機送波のチャネル間隔	周波数の幅
の猫合力	
五帆と五帆の組合せ	九・八頭以下
五畳と一○畳の組合せ	一回・九五職以下
○ 職 2 ○ 職 6 額 6 種 4 寸	<u> 1 九・九曜以下</u>
田城と二〇城の組合せ	二四・九五堀以下
○ 堀 と ○ 堀 の 組 合 寸	ニれ・九堀以下
110 駅と110 駅の額合力	三九・八堀以下

「 帯域外領域における不要発射の強度の許容値は、次のとおりであること。

一 基地局の送信装置

チャネル間隔	の周波教の絶対値概送波の周波数からの差	おける平均電力 任意の一 眠の帯域幅に
二 五 MHz	岷 未満三・七五 殿 以上六・二五	以下 (I) 五・二五デシベル
五、MHz	未満七・五郷以上二・五殿	以下(1) 一五・七デシベル
	一五瓶以上二五瓶未満	(1) 1111デツベイ以下
☐ ○ WHz	三〇畑以上五〇堀未満	(1) 111デシベル以下

次のとおりとする。 注 一の送信装置から複数の搬送波を同時に発射する送信装置にあっては、

広じたこの表の許容値を満たすこと。 低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波のチャネル間隔にい周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い周波数より 同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数より高 ■ 帯域外領域における不要発射の強度の許容値は、次のとおりであること。

〕 基地局の送信装置

۰			
	チャネル間隔	の周波数の絶対値機送波の周波数からの差	おける平均電力任意の一凪の帯域幅に
		の月なまの多さ	4 ~ V N + m /
	∏• ⊞ WHz	三・七五堀以上六・二五	(1) 玉・二玉デシベル
		│ 呉 ⊀輝	以下
	MHz MHz	七・五瓶以上二・五瓶	(1) 出・七アシベケ
		米糎	以下
	1 O MHZ	一五嘅以上二五嘅未満	(1) ニニデシベル以下
	1 10 ZHW	三〇째以上五〇點未満	(1) 1111 デシベイ以下

次に掲げる許容値を満たすこと。注 一の送信装置から複数の搬送波を同時に発射する送信装置にあっては、

応じたこの表の許容値を満たすこと。低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波のチャネル間隔に以周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い周波数より同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数より高

- 範囲が重複する場合は、この限りでない。
 波数範囲と他の機送波のチャネル間隔に応じた第二号 □ の表の周波数の複数の搬送波のうち、 | の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の周隔に応じたこの表の計解に応じたこの表の計解に応じたこの表の計容値又は当該他の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の計容値又は当該他の搬送波のチャネル間間隔に応じたこの表の周波数範囲と他の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の周波数範囲と他の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の計容を確認ない。
 □ 同時に発射する複数の搬送波の間の周波数範囲においては、各機送波
- ① 陸上移動局の送信装置
- 送信する送信装置

 ()一の搬送波を送信する送信装置又は連続しない複数の搬送波を同時に

チャネル間隔	の周波数の絶対値搬送波の周波数からの差	おける平均電力 任意の一 呱の帯域幅に
. ⊢ ∰ MHz	服未満三・七五 B 以上六・二五	(1) 10ドッパガ以下
五 MHz	未満七・五甌以上一二・五甌	(1) 10 デッベル以下
1 O MHz	一五 55以上二〇 55 未満	(1) 11年デシベル以下
	二〇 55 以上二五 55 未満	(1) 三〇デシベル以下
1 10 WHz	三〇 嘅 以上三五 嘅 未満	(1) 二五デシベル以下
	三五 蝦 以上五〇 蝦 未満	(1) 三〇デシベル以下

<u>おりとする。</u> 注 連続しない複数の搬送波を同時に送信する送信装置にあっては、次のと

- に応じたこの表の許容値を満たすこと。 り低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波のチャネル間隔い周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い周波数よい同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数より高
- する複数の機送波のうち、一の機送波のチャネル間隔に応じたこの表問隔に応じたこの表の許容値)を満たすこと。ただし、当該同時に発射チャネル間隔に応じたこの表の許容値又は当該他の機送波のチャネルだこの表の周波数範囲が重複する場合にあっては、当該一の機送波の間隔に応じたこの表の周波数範囲と他の機送波のチャネル間隔に応じたこの表のまな禁衛側と他の機送波のチャネル間隔に応じに関するこの表の許容値(複数の搬送波のうち、一の搬送波のチャネル回時に発射する複数の機送波の間の周波数範囲においては、各機送波

- 帯域又は、Pで帯域が重複する場合は、この限りでない。 波数範囲と他の機送波に関する第二号 □ □ の帯域、30の帯域、600の る複数の機送波のうち、I の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の周隔に応じたこの表の許容値)を満たすこと。ただし、当該同時に発射すさえの表の周に応じたこの表の許容値又は当該他の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の周波数範囲が直復する場合にあっては、当該 I の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の周波数範囲と他の搬送波のチャネル間隔に応じたこの表の許容値(複数の搬送波のうち、 I の搬送波のチャネル回に発射する複数の搬送波の間の周波数範囲においては、各搬送波
- ① 陸上移動局の送信装置

チャネル間隔	の周波数の絶対値搬送波の周波数からの差	おける平均電力 任意の一 恥の帯域幅に
一· 班 MHz	堀 未満三・七五 ۔ 11五	(1) 10ドシベル以下
五 MHz	未満七・五畳以上二・五畳	(1) 10ドッベル以下
→ ○ WHz	一五嘅以上二〇嘅未満	(1) 二玉デシベル以下
	二〇 55 以上二五 55 未満	(1) 三〇デシベル以下
110 WHz	三〇 嘅 以上三五 嘅 未満	(一) 二五デシベル以下
	三五 蝦 以上五〇 蝦 未満	(1) 三〇デシベル以下

の周波数範囲が重複する場合は、この限りではない。の周波数範囲と他の機送波のチャネル間隔に応じた第二号 ① ①の表

く。) 連続する二の搬送波を同時に送信する送信装置(中継を行うものを除

の組合せ チャネル間隔 る各搬送波の同時に送信する	離調周波数	なける平均電力 任意の一脳の帯域幅に
の組合が国際と	<u>未満</u> 九・九 銀 以上一四・七 銀	(1) 1川水ツムガスト
	<u>銀未満</u> 一四・七 銀以上一九・七	(1) 11Hjrシムグ以下
開の組合せて田野と一〇	二・四三五風 未満一二・四十五風 以上二	(1) 1mjkツムゲ以下
	ヤ・四二五 <u>紀 未満</u> 二二・四二五 <u>過 以上</u> 二	(I) 11Hivッム 5以下
服の額合力 ○ 題 か ○	<u> 八五 屋 未満</u> 一四・九五 駅 以上二九・	(1) 1mjkツムガト
	八五 <u>昭</u> 未満 二九・八五 照 以上三四・	
開め組合せ 田 型 シ 1 O	<u> 七・四二五 場 未満</u> 十七・四七五 堀 以上三	(1) 1mjkツムガスト
	二・四二五 紙 未満三七・四二五 風 以上回	(1) 11 田 アンベ グ以下
照の額合力 ○ 翻 り 1 ○	<u> 八五 堀 未満</u> 一九・九五 堀 以上四四・	(1) 1mjkツムガスト
	八五紀末満四四・八五紀以上四九・	(I) 11Hjyシュゲスト
<u>親</u> の類合力 110 親 か110	<u>銀 未満</u> 三四・九 駅以上五九・七	<u>(1) コルツネギスト</u>
	<u>紙売</u> 五九・七堀以上六四・七	<u>(1) 11円ドッベイ以下</u>

の側定帯域の中心周波数までの差の周波数とする。送信周波数帯域を合わせたものをいう。)の中心周波数から不要発射の強度注 離調周波数は、送信周波数帯域(同時に送信する連続する二の搬送波の

三 陸上移動中継局の送信装置

場合にあっては〕の規定を、それぞれ適用する。
(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継するは〕の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

スプリアス領域における不要発射の強度の許容値は、次のとおりであること。

一 基地局の送信装置

周波数	不要発射の強度の許容値
九班以上一五〇	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)一三
式 未 施	デシベル以下の値
一五〇 堀 以上三	任意の一〇咫の帯域幅における平均電力が(1)一
○既未満	ニデシベル以下の値
三〇瓶以上、	任意の一〇〇mの帯域幅における平均電力が(1)
○○○ 點 未満	一三デシベル以下の値
1、000点以	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)一三
HOH A	デシベル以下の値
米 瘧	
二、五〇五째以	任意の一肌の帯域幅における平均電力が(1)四二
上二、 田三田 萬	デシベル以下の値
米 糎	
二、五三五瓶以	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)二二
니 시 (전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전	デシベル以下の値
未 流 (注 -)	
二、大五五瓶以	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)一三
긔	デシベル以下の値

- を適用する。 離調周波数が五○ 畑以上となる周波数帯に限り、表の下欄に掲げる値周波数が二五 堀以上、チャネル間隔が二○ 凪の無線設備にあっては一二・五 凪以上、チャネル間隔が一○ 凪の無線設備にあっては離調五 風以上、チャネル間隔が五 凪 の無線設備にあっては離調周波数が注1 チャネル間隔が二・五 凪の無線設備にあっては離調周波数が
 - は、次に掲げる許容値を満たすこと。
 2 一の送信装置から複数の搬送波を同時に発射する送信装置にあって
 - 周波数より低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波にり高い周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数よ

回 陸上移動中継局の送信装置

場合にあっては〕の規定を、それぞれ適用する。(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継するは〕の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

4 スプリアス領域における不要発射の強度の許容値は、次のとおりであること。

一基地局の送信装置

周波数	不要発射の強度の許容値
九班以上一五〇	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)一三
H H H H H H H H H H H H H H	デシベル以下の値
五〇 瓶 以上三	任意の一〇 觇の帯域幅における平均電力が(1)一
○馬米糖	ニデシベル以下の値
三〇 点 以上 1、	任意の一〇〇 凪の帯域幅における平均電力が(一)
○○○ 点 未満	一三デシベル以下の値
1、000点以	任意の一㎞の帯域幅における平均電力が(1)一三
十二、日○日 景	デシベル以下の値
米 握	
二、五〇五点以	任意の一帆の帯域幅における平均電力が(1)四二
十二、 HIIIH 景	デシベル以下の値
米 握	
二、五三五瓶以	任意の一 ۔ の帯域幅における平均電力が(1)二二
上二、大田田島	デシベル以下の値
未満 (注1)	
二、大五五瓶以	任意の一肌の帯域幅における平均電力が(1)一三
긔	デシベル以下の値

- を適用する。 離調周波数が五○ 凪 以上となる周波数帯に限り、表の下欄に掲げる値周波数が二五 凪 以上、チャネル間隔が二○ 凪 の無線設備にあっては一二・五 凪 以上、チャネル間隔が一○ 凪 の無線設備にあっては離調五 版 以上、チャネル間隔が五 凪 の無線設備にあっては離調周波数が注・ チャネル間隔が二・五 凪 の無線設備にあっては離調周波数が
 - は、次に掲げる許容値を満たすこと。
 2 一の送信装置から複数の搬送波を同時に発射する送信装置にあって
 - 周波数より低い周波数においては当該最も低い周波数の機送波にり高い周波数においては当該最も高い周波数の搬送波、最も低い同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数よ

関するこの表の許容値を満たすこと。

い。 た<u>第五号</u> ① の表の周波数範囲が重複する場合は、この限りでなた 同人の表の周波数範囲又は当該他の機送波のチャネル間隔に応じた注1の周波数範囲と他の搬送波<u>のチャネル間隔に応じた</u>第二号発射する複数の搬送波のうち、一の搬送波のチャネル間隔に応じ送扱に関するこの表の許容値を満たすこと。ただし、当該同時には同同時に発射する複数の搬送波の間の周波数範囲においては各機

① 強上移動局の送信装置

₩.₩.₩	1/ 1ELVAT + 0 (EKTL) 0 11 t/L 1EL
周波数	不要発射の強度の許容値
九版以上一五〇	任意の一 地の帯域幅における平均電力が(1)一三
A 未施	デシベル以下の値
五〇 瓶 以上三	任意の一〇 凪の帯域幅における平均電力が(1)一
○点米瓶	ニデシベル以下の値
비〇 惊 갖 나 나	任意の一〇〇mの帯域幅における平均電力が(1)
1、000 景米	一三デシベル以下の値
汇	
1、000点以	任意の一地の帯域幅における平均電力が(1)一三
니 (H ○ H A B H A D L A B B B B B B B B B B B B B B B B B B	デンベル以下の値
米瘧	
二、五〇五点以	任意の一郎の帯域幅における平均電力が(1)三〇
귀기, 벼피() ! [Hin () [Hin ()] # [Hin (デンベル以下の値
米瘧	
二、五三〇熈以	任意の一 肌の帯域幅における平均電力が(1)三〇
귀기、 HIII H A	デシベル以下の値
米瘧	
二、五三五点以	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)三〇
귀기、	デシベル以下の値
米糖 (注)	
二、大五五瓶以	任意の一心の帯域幅における平均電力が(1)一三
14	デシベル以下の値

を適用する。 離調周波数が五○ 呱以上となる周波数帯に限り、表の下欄に掲げる値周波数が二五 呱以上、チャネル間隔が二○ 呱の無線設備にあっては一二・五 呱以上、チャネル間隔が一○ 瓜の無線設備にあっては離調五 與以上、チャネル間隔が五 凪の無線設備にあっては離調周波数が注Ⅰ チャネル間隔が二・五 呱の無線設備にあっては離調周波数が法□ 関するこの表の許容値を備たすこと。

限りでない。問隔に応じた第三号 ①の表の周波数範囲が重複する場合は、このの帯域、③の帯域若しくは④の帯域又は当該搬送波のチャネルた注1の周波数範囲と他の搬送波に関する第二号 ① ① の帯域、② 発射する複数の搬送波のうち、一の搬送波のチャネル間隔に応じ送波に関するこの表の許容値を満たすこと。ただし、当該同時には 同時に発射する複数の搬送波の間の周波数範囲においては各機

コ 強上移動局の送信装置

	17 1-17 1-17 - 0 (1961) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
周波数	不要発射の強度の許容値
九班以上一五〇	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)一三
₩ 五 1	デシベル以下の値
五〇 瓶 以上三	任意の一〇畑の帯域幅における平均電力が(1)一
○点米瓶	ニデシベル以下の値
三〇瓶以上上	任意の一〇〇凪の帯域幅における平均電力が(一)
1、000点米	一三デシベル以下の値
握 	
1、000点以	任意の一地の帯域幅における平均電力が(1)一三
시 I \ H ○ H જ	デシベル以下の値
米 糎	
二、五〇五点以	任意の一 肌の帯域幅における平均電力が(1)三〇
시기, HIIO A	デシベル以下の値
米 瘧	
二、五三〇賦以	任意の一 肌の帯域幅における平均電力が(1)三〇
지기, HIIIH A	デシベル以下の値
米 糎	
二、五三五点以	任意の一晩の帯域幅における平均電力が(1)三〇
귀기,	デシベル以下の値
米糖 (注)	
二、大五五瓶以	任意の一地の帯域幅における平均電力が(1)一三
4	デシベル以下の値
1	

る。波数が五〇凪以上となる周波数帯に限り、表の下欄に掲げる値を適用す数が二五凪以上、チャネル間隔が二〇凪の無線設備にあっては離調周二・五凪以上、チャネル間隔が一〇凪の無線設備にあっては離調周波瓜以上、チャネル間隔が五凪の無線設備にあっては離調周波数が一注、チャネル間隔が二山の無線設備にあっては離調周波数が一注、チャネル間隔が二・五凪の無線設備にあっては離調周波数が六・二五

- りとする。 3 連続しない搬送波を同時に送信する送信装置にあっては、汝のとお
 - 関するこの表の許容値を満たすこと。周波数より低い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波にり高い周波数においては当該最も低い周波数の搬送波、最も低い同時に発射する複数の搬送波の周波数のうち最も高い周波数よ
 - 第五号 ① ① の表の周波数範囲が重複する場合は、この限りでなりの表の周波数範囲又は当該他の機送波のチャネル間隔に応じたこの周波数範囲と他の搬送波のチャネル間隔に応じた第二号 ① 財する複数の機送波のうち、一の搬送波のチャネル間隔に応じた注送波に関するこの表の許容値を満たすこと。ただし、当該同時に発財「同時に発射する複数の搬送波の間の周波数範囲においては各機
- 回 陸上移動中継局の送信装置

る場合にあっては〕の規定を、それぞれ適用する。
(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継すは〕の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

- 送信装置の空中線電力は、炊のとおりであること。
 - 一 基地局の送信装置

四〇ワット以下)であること。 二〇ワット以下(チャネル間隔が二〇 ۔ の無線設備の場合にあっては、

- □ 陸上移動局の送信装置
 - ① 再生中継方式による中継を行う陸上移動局の送信装置

中線電力の総和の値が六〇〇ミリワット以下であること。

動局により中継されるものを含む。)を中継する場合に送信する電波の空移動局(中継を行うものを除く。)への送信(陸上移動中継局又は陸上移継する場合に送信する電波の空中線電力の総和の値又は基地局から陸上信(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中であり、かつ、陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送する電波の一の搬送波当たりの空中線電力の値が二〇○ミリワット以下リフット以下、複数の搬送波を同時に発射する送信装置にあっては送信一の搬送波を発射する送信装置にあっては空中線電力の値が二〇○ミ

陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動の 再生中継方式以外の中継方式による中継を行う陸上移動局の送信装置

回 陸上移動中継局の送信装置

する場合にあっては〕の規定を、それぞれ適用する。信(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継では〕の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあっ陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

- 以信装置の空中線電力は、次のとおりであること。
 - 」 基地局の送信装置

○ワット以下)であること。 □○ワット以下(チャネル間隔が□○ ۔ の無線設備の場合にあっては、四

- □ 陸上移動局の送信装置
 - ① 再生中継方式による中継を行う陸上移動局の送信装置

中線電力の総和の値が六○○ミリワット以下であること。申録電力の総和の値が六○○ミリワット以下であること。動局により中継されるものを含む。)を中継する場合に送信する電波の空移動局(陸上移動中継局又は陸上移離子る場合に送信する電波の空中線電力の総和の値又は基地局から陸上信(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中であり、かつ、陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送する電波の一の概送波当たりの空中線電力の値が二○○ミリワット以下)切≫ト以下、複数の概送波を同時に発射する送信装置にあっては送信一の概送波を発射する送信装置にあっては空中線電力の値が二○○ミ

陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動の 再生中継方式以外の中継方式による中継を行う陸上移動局の送信装置

和の値が二〇〇ミリワット以下であること。 継されるものを含む。)を中継する場合に送信する電波の空中線電力の総を行うものを除く。)への送信(陸上移動中継局又は陸上移動局により中送信する電波の空中線電力の総和の値又は基地局から陸上移動局(中継中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合に

③ ① 及び ② 以外の陸上移動局の送信装置

する電波の空中線電力の総和が二○○ミリワット以下であること。リワット以下、複数の搬送波を同時に発射する送信装置にあっては送信一の搬送波を発射する送信装置にあっては空中線電力の値が二○○ミ

三 陸上移動中継局の送信装置

場合にあっては〕の規定を、それぞれ適用する。
(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継するは〕の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

- ※ 送信装置の相互変調特性は、次のとおりであること。
 - 」 基地局の送信装置
 - ① チャネル間隔が二・五帆のもの

と。えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であるこえい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であるこ力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネル編(井)五 崛離れた妨害波を希望波の定格出力より三〇デシベル低い送信電希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(井)二・五 胍及び

② チャネル間隔が五 凪のもの

と。い電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であるこで加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネル漏え一○ 眦離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送信電力希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(+)五 眦 及び(+)

◎ チャネル間隔が一〇mのもの

こと。 漏えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下である電力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネル(+)二○ L 離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送信希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(+)一○ L 及び

希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(±)二〇 毗及び((サッネル間隔が二〇 ۔ あもの

和の値が二〇〇ミリワット以下であること。 継されるものを含む。)を中継する場合に送信する電波の空中線電力の総を行うものを除く。)への送信(陸上移動中継局又は陸上移動局により中送信する電波の空中線電力の総和の値又は基地局から陸上移動局(中継中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合に

二〇〇ミリワット以下であること。③ 以及び③以外の陸上移動局の送信装置

回 陸上移動中継局の送信装置

場合にあっては「の規定を、それぞれ適用する。(陸上移動中継局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継するは「の規定を、基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信局又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合にあって陸上移動局(中継を行うものを除く。)から基地局への送信(陸上移動中継

- ⇒ 送信装置の相互変調特性は、次のとおりであること。
 - 一 基地局の送信装置
 - ① チャネル間隔が二・五 他のもの

こと。編えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下である電力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネル(比)五 岘 離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送信希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(け)二・五 嶋 及び

② チャネル間隔が五畳のもの

と。えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であるこえい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であるこ力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネル漏ー○ 眦 離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送信電希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(+) 五 眦 及び(+)

◎ チャネル間隔が一〇mのもの

ること。 ル漏えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であ信電力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネ(+)二○ ယ 離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(+)一○ 毗及び

希望波を定格出力で加えた状態の下で、希望波から(±)二〇 m 及び((サッキネル間隔が二〇 m のもの)

こと。 漏えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下である電力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネル(H)四○ 胍 離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送信

- ① 陸上移動中継局の送信装置
 - の規定を適用する。 同又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合は、(一)基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信(陸上移動中継
- 自動的に選択されること。 無線設備の試験のための通信等を行う無線局の電波を受信することによって、シングルキャリア周波数分割多元接続方式広帯域移動無線アクセスシステムの手方となる基地局又は時分割・直交周波数分割多元接続方式若しくは時分割・陸上移動局(中継を行うものを除く。)の送信する電波の周波数は、通信の相
- の無線設備の増幅度特性は、次のとおりとする。

 | 陸上移動局(再生中継方式以外の中継方式による中継を行うものに限る。)

 - と。波数から一〇 畑低い周波数における増幅度が二〇デシベル以下であるこぼ数から一〇 畑低い周波数における増幅度が二〇デシベル以下であるこ○ 送信周波数帯域の最も高い周波数から一〇 堀高い周波数及び最も低い周
 - 波数から四○ m 低い周波数における増幅度が○デシベル以下であること。〕 送信周波数帯域の最も高い周波数から四○ ۔ 高い周波数及び最も低い周

ること。 ル漏えい電力及び帯域外領域における不要発射の強度の許容値以下であ信電力で加えた場合において発生する相互変調波の電力が、隣接チャネ(+)四○ ۔ 離離れた妨害波を希望波の定格出力より三○デシベル低い送

- ① 陸上移動中継局の送信装置
 - の規定を適用する。 同又は陸上移動局により中継されるものを含む。)を中継する場合は、(一)基地局から陸上移動局(中継を行うものを除く。)への送信(陸上移動中継
- 自動的に選択されること。自動的に選択されること。無線設備の試験のための通信等を行う無線局の電波を受信することによって、シングルキャリア周波数分割多元接続方式広帯域移動無線アクセスシステムの手方となる基地局又は時分割・直交周波数分割多元接続方式若しくは時分割・陸上移動局(中継を行うものを除く。)の送信する電波の周波数は、通信の相
- 無線設備の増幅度特性は、次のとおりとする。 図上移動局(再生中継方式以外の中継方式による中継を行うものに限る。)の

 - と。波数から一〇凪低い周波数における増幅度が二〇デシベル以下であるこ② 送信周波数帯域の最も高い周波数から一〇凪高い周波数及び最も低い周
 - 波数から四〇 m低い周波数における増幅度が○デシベル以下であること。 三 送信周波数帯域の最も高い周波数から四○ ۔ 高い周波数及び最も低い周